



会報

日本太鼓財団

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2025年夏号

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-2 日本財団第二ビル6階

公益財団法人 日本太鼓財団 会長 長谷川 義

Tel. 03-6205-4377 Fax. 03-6205-4378

URL : <https://www.nippon-taiko.or.jp> Email : info@nippon-taiko.or.jp

大阪・関西万博 1000人太鼓 ～北海道から九州まで111団体・約1,500人が揃い打ち～



7月13日(日)に大阪・関西万博会場内 EXPOアリーナ「Matsuri」(大阪市此花区夢洲)にて大阪・関西万博1000人太鼓(日本太鼓ジャンボリー)を開催しました。

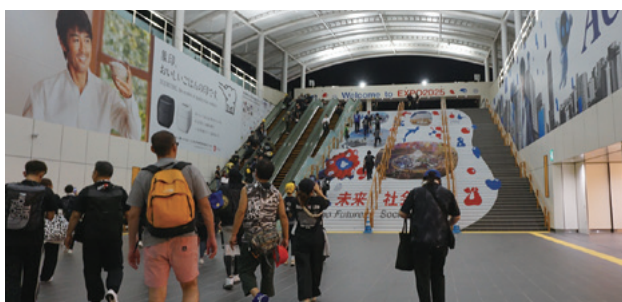
会場の設営は前日深夜から始まりました。

万博会場から一つ隣の駅にある「咲洲モリーナ」にて、21時からスタッフの打合せを行いました。万博会場に前日から入って準備を行うことはできません。日付変更と同時に入場し、スムーズに準備を行う必要があるため、入念な打合せを行いました。

23時、打合せを終え、万博会場最寄りの夢洲駅へ電車で向かいました。24時前には万博の関係者入口に到着し、日付変更まで待機しました。

24時、日付変更と同時に万博会場へ入場しました。事前にAD証の準備や手荷物検査について周知をしていたこともあり、スムーズに約100名のスタッフが入場しました。

一般には経験できない、閉場後の静かな万博会場という珍しい景色を楽しむことができました。



(23時半 万博会場最寄りの夢洲駅に到着)

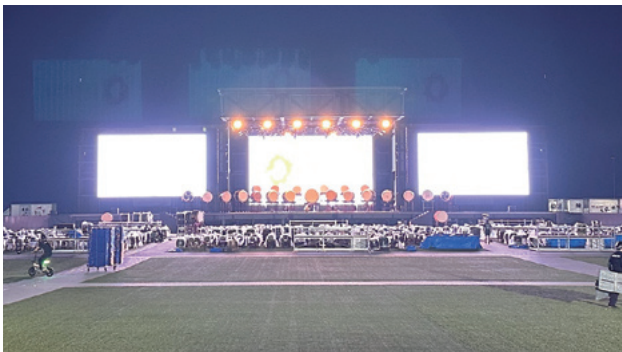


(24時 深夜の万博会場)

24時半、EXPOアリーナ「Matsuri」に集合したスタッフは、手際よく設営作業を行いました。

深夜の万博会場に続々と大型トラックが到着し、各出演団体のほか、浅野太鼓楽器店、浅野太鼓文化研究所、太鼓テック、宮本卯之助商店からレンタルした太鼓が搬入されました。大太鼓が130鼓、長胴・桶胴太鼓が1,000鼓、締太鼓が220鼓、その数およそ1,400鼓がアリーナに整然と並ぶ姿は圧巻でした。

深夜3時頃にすべての太鼓を並び終え、夜露対策で太鼓の1鼓1鼓にビニール袋が被せられました。



(3時 整然と並ぶ太鼓)



(5時 朝日に照らされる太鼓)

7時過ぎには出演者が地区ごとに分かれて万博会場内に順次入場し、EXPOアリーナ「Matsuri」に集まりました。朝の時点で既に気温は高く、控室はあるものの、全員が一度に入ることにはできないため、譲り合いながら休憩をとりました。

10時、出演者も含めた全体の打合せが行われました。曲の始まり、全体の流れを最終確認し、本番への気持ちを高めました。



(10時 挨拶をする長谷川会長)

11時半、リハーサルが始まりました。

リハーサルは残念ながら音が合いませんでした。本番までのわずかな時間に、日本太鼓財団技術委員や各地区のリーダーが演奏者に駆け寄り、改善点を指導しました。

リハーサルに続き、いよいよ本番を迎えました。

初めに近畿地区による「ENERGIA」が演奏された後、日本財団の尾形武寿会長による初っ切り太鼓に続いて、大阪・関西万博1000人太鼓の合同演奏曲「いのちの響宴」が始まりました。



(初っ切り太鼓を打つ日本財団尾形会長)

全国から集まった111団体、約1,500人による「いのちの響宴」は万博会場中に響き渡りました。演奏は、ずれることなく、曲の最後の「ヤー！」という掛け声がぴったり揃い、完璧に演奏しきりました。集まった約3,800人の観客からは大きな拍手と、演奏者からはその成功に大きな歓声が上がりました。

最後は、長谷川義会長の音頭でお客様とともに手締めを行いました。

わずか約5分の演奏でしたが、約2年半に及ぶ企画、準備に奔走した大阪・関西万博1000人太鼓実行委員や日本太鼓財団技術委員、万博に向けて練習を積んできた演奏者たちは互いに肩を抱き合い、涙を流して成功を称えあいました。

怪我や事故もなく、大阪・関西万博1000人太鼓は盛況裡に終了いたしました。

ご来場いただいた皆さま、前日から準備していただいたスタッフの皆さま、並びに関係者の方々に心より感謝申し上げます。



(ステージ上からの演奏の様子)

大阪・関西万博1000人太鼓を実施して

大阪・関西万博1000人太鼓実行委員会 委員長 丸山 拓也

1000人太鼓の前夜21時、会場には全国の仲間が次々と集まりました。日付が変わる深夜0時からは一斉に搬入を開始。私たちは一睡もせず、1,500台もの太鼓を正確に並べ続けました。時間との戦いの中で、疲労を超えて「必ず成功させたい」という思いが勝り、互いに声を掛け合いながら迎えた夜明け。朝陽に照らされ整然と並んだ太鼓の光景は、忘れられないものとなりました。「1000人太鼓」と銘打ちながら、実際には全国各地、そして海外から1,500人以上が参加。小学生から70代以上まで、障がいを持つ仲間も共に、国籍・世代を越えて並んだ勇姿は圧巻でした。



(挨拶をする丸山実行委員長)

本企画は、万博という世界が注目する大舞台で「日本の伝統文化である和太鼓の魅力を国内外に発信する」ことを目的に、2年半前に始動したプロジェクトです。しかし本番が近づくにつれ、不安は募りました。本当に成功できるのか、事故なく終わられるのか。炎天下での演奏、複雑な動線、準備不足や判断の遅れが混乱につながる可能性もありました。そのような思いを抱えつつも、私たちを支えてくれたのは全国の仲間の思いでした。近畿ブロックの実行委員を中心に、九州をはじめ全国から仲間が集い、「一緒にこのイベントを必ず成功させよう」と心を寄せてくださったことがとても大きな力となりました。

準備の過程では、度重なるオンライン会議、練習動画の作製と配信、全国各地での合同練習会も繰り返行われました。文化や打法の異なる1,500人がひとつのリズムを共有するための工夫と努力です。初めて顔を合わせても、太鼓を通じて心がつながる「和太鼓が持つ力」を改めて実感いたしました。

そしてついに迎えた本番。1回目（リハーサル）では、残念ながら音が完全に揃わず、大きなズレが生じ大人数での演奏の難しさを目の当たりにした瞬間でした。しかし続く2回目（本番）では、奇跡のように1,500人の音がひとつに重なりました。地鳴りのような轟音が会場を包み、波のように広がる音が観客の胸を打ち抜く。あの瞬間、奏者も観客も、まさに一体となったのです。

演奏曲も特筆すべきものです。まず、近畿ブロック600人による合同曲「ENERGIA」。地域の誇りと団結を力強く表現しました。そして初披露となる全国合同曲「いのちの響宴」。長谷川会長の作曲による本曲は、万博に相応しく「命の尊さ、多様性の共鳴、人と人とのつながり」をテーマにした渾身の作品です。1,500人の音が重なり合った瞬間、会場は大きな拍手と感動に包まれました。

演奏後には、1,500人の奏者と3,800人の観客、合わせて約5,000人が立ち上がり、長谷川会長の掛け声による「三本締め」が行われました。手と手が響き合う音は、太鼓に勝るとも劣らぬ迫力で、すべての心がひとつになった瞬間でした。すべてを終えて舞台袖に戻った私たちは、互いに抱き合い、涙を流したその光景は、一生忘れることができませぬ。これまでの積み上げてきた2年半の準備や多くの苦労が一瞬で報われました。

そして感動の余韻に浸る間もなく、1,500台の太鼓を片付け・搬出するという大仕事でした。疲労困憊の中、一丸となって最後まで気を抜かずに作業を進めました。設営から撤収まで事故なくやり遂げた経験は、まさにこの企画の最大の挑戦を象徴するものとなりました。



(観客と一体となった三本締)

また、この企画には歴史的な意義もありました。55年前（1970年）の大阪万博において行われた和太鼓の合同演奏。その一体感と感動が、のちに全国の太鼓文化を結集する契機となり、今日の日本太鼓財団創設へと繋がりました。今回の1000人太鼓は、その歴史を受け継ぎ、新たな時代に響きを刻むものとなりました。

今回の成功は、一部の力では到底成し得なかったことです。2年半という長い準備を支えてくださった全国の仲間と財団職員様、会場設営や運営に尽力いただいたスタッフの皆様、何よりこの挑戦を自らのこととして共に歩んでくださった演者の皆様、そして多大なるご支援をいただきました日本財団様に、心より御礼申し上げます。

ネパール太鼓公演 ～ネパール・ハンセン病全国会議にて～

5月6日(火)から5月11日(日)にかけて、ネパールに橘太鼓「響座」(宮崎)を派遣いたしました。これは日本財団及び笹川保健財団より文化交流の一環として和太鼓演奏会開催の派遣要請を受けたもので、日本に対する理解や認識を高めるとともに、日本太鼓の普及・振興を図ることを目的に、実施しました。

公演当日5月8日(木)、バヌバクタ記念学校にて太鼓演奏を披露しました。約800名の生徒や学校関係者が集まり、子供たちは演奏を食い入るように見入っていました。



(ハンセン病全国会議のレセプションでの演奏)

学校での演奏後、ハンセン病全国会議の会場であるカトマンズ マリオット ホテルに移動しました。ハンセン病全国会議のレセプションで橘太鼓「響座」が演奏を始めると、参加者はその迫力に感動し、大きな拍手が贈られていました。日本財団の笹川会長からも「素晴らしい演奏に感謝!」とのお言葉をいただきました。

今回の公演には、ネパール政府からも多数の出席を得られ、日本太鼓の普及、文化交流の一翼を担うことができました。



(日本財団笹川会長と記念写真)

ネパール太鼓公演を終えて

橘太鼓「響座」 岩切 響一

今年5月、私はネパールの首都カトマンズを訪れ、ハンセン病全国会議のレセプションや地元の学校で太鼓の演奏を行いました。初めてのネパールは活気と人々の温かさに満ち、街の喧騒や香り、色彩のすべてが新鮮でした。ハンセン病撲滅に向けて活動する多くの方々の思いや、現地で生活する人々の笑顔に触れる中で、国境を超えて支え合う力の大きさを実感しました。

地元学校での演奏では、子どもたちが目を輝かせて太鼓の音に耳を傾け、手拍子や笑顔で応えてくれたことが印象的でした。言葉は違っても、太鼓の音が心と心をつなげる瞬間に立ち会えたことはまた一つ大きな喜びでした。

今回の経験を通して、自分たちの演奏が文化交流や言葉を越えたつながりを生むことができることをまた改めて、学ばせていただきました。今後も太鼓を通して国内外関係なく人々とつながって行ける可能性を強く感じました。

ご一緒させていただきました、日本財団の皆様、そして、手厚いサポートをしていただきました日本太鼓財団の皆様、本当に有難うございました。

二見 莉旺

僕がネパールに行って印象に残ったことは、学校での演奏でした。僕と同じくらいの生徒みんなが熱心に聞いてくれたことです。僕の名前も聞いてくれて、生徒のみんなが笑顔で大きな声で「りお!」と名前を呼んでくれました。恥ずかしいような嬉しい気持ちになりましたが、太鼓は楽しく打つことができました。

話をしなくても楽しい同じ時間を過ごし、日本の太鼓の魅力をネパールの人に知ってもらえたのではないかと思います。国際交流ができ、聞いてくれる人を笑顔にできる太鼓は素晴らしいと思います。

今回、ネパール公演へ参加でき感謝しています。これからも太鼓で見て聴いてくれる人を笑顔にできるよう頑張っていこうと思います。僕にとっても、とても良い経験させていただきました。ありがとうございました。



(バヌバクタ記念学校での演奏)

3月のジュニアコンクールに来日した海外2団体より感想文をいただきました。

ブラジル代表 カスカベル前進太鼓

15年間の活動を経て、カスカベル前進太鼓は、日本の大分県で開催された日本太鼓ジュニアコンクールにブラジル代表として参加するという夢を実現しました。この挑戦は、カスカベル文化スポーツ協会、ブラジル太鼓協会、日本太鼓財団の支援を受けて行われました。

旅はカスカベルから始まり、福岡に到着しました。そこで温かく迎えられ、日本太鼓財団の職員の方と共に、旅の間ずっとサポートをしていただきました。詳細に計画されたスケジュールのもと、文化活動や博物館などの観光地を訪問したり、また、多くのメンバーが大分や別府の雪に感動したシーンもありました。大会の運営側の方々には細やかな配慮をしてくださったほか、荷物を紛失した際にも助けて下さり、とても感謝しています。

大会の会場とその運営は完璧で、メンバー全員が感動を覚えました。演奏後、グループは国際友好賞と特別賞を受賞し、大会のトップチームの一つとして認められ、大変喜んでおりました。また、台湾代表葫蘆墩 Smile 太鼓團や日本の三代目源流との交流イベントにも参加し、文化交流と絆の強化を図りました。また、由布院での長谷川先生による技術指導は、最も印象的で貴重な学びの時間となりました。

新幹線の旅もとても好評で、楽しい時間を過ごしました。東京では東京スカイツリー、浅草寺、宮本卯之助商店、太鼓博物館を訪問させて頂きました。

これらの経験は非常に有意義で、学び、規律、交流、そして日本文化への益々の敬意を促す事となりました。日本財団、日本太鼓財団、ブラジル太鼓協会、カスカベル文化スポーツ協会、家族や支援者の皆様に、この夢を実現させて下さったことを心より感謝申し上げます。

台湾代表 葫蘆墩 Smile 太鼓團 代表 馮韻怡

葫蘆墩 Smile 太鼓團は、今回で5回目の日本太鼓ジュニアコンクールへの参加でした。11名のメンバーは3代目と4代目の青少年です。先輩の経験を仰ぎながら伝承して参りました。

今回は新たに編曲された「打打」と言う曲を演奏することになりました。なかなかリズムが合わなくて、慣れない新メンバーはとても苦労しました。また、開会式の際、体調が悪い子がいて、保健室に運ばれました。早く回復するようにお祈りするしかありませんでした。当日最後の演奏では、体調の悪い子も回復し、皆完全に太鼓に溶け込み楽しく演奏しました。良い結果は得られませんが、全力で演奏しましたので、皆が達成感を感じるとともに、皆の良い思い出になりました。

心から葫蘆墩 Smile 太鼓團を応援してくださった皆様に感謝致します。皆様のお陰で学業を中心の台湾社会に太鼓学習を通して、礼儀正しい態度、妥協せずに頑張る精神を養成することができました。また、メンバー達にとって国際舞台での経験は、大きな糧となることを確信しております。

指導して下さいました先生をはじめ、王理事長、太鼓財団の皆様、いつもありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。感謝！最感謝！

陳雯翔

私は日本太鼓ジュニアコンクールに台湾代表として参加したのは今回で3回目です。1回目は2021年、コロナのためビデオ審査で参加しました。実際に来日し、参加するのは2回目です。「第27回日本太鼓ジュニアコンクール」に出場し、日本各地の代表チーム、ブラジル代表と同じ舞台に立てたことを大変光栄に思います。現在高校3年生の私にとっては、最後のコンクールでもありました。

今回演奏する自由曲は初めて挑戦する曲でした。大会の一週間前に大幅に太鼓の配列を替え、締太鼓と大太鼓の打ち方とリズムを変更しました。そのため、毎日猛練習をし、日本へ参りました。大会前日は新たな指導を受けました。その内容は私にとって不可能と思われる挑戦でした。また、当日の朝に体調が悪く倒れてしまったメンバーがいてとても心配でしたが、本番前に回復し、出場することが出来ました。皆一生懸命演奏しました。優勝は実現しませんが、皆後悔はしていません。

今後は私自身ももっと経験を積み、後輩を指導していきたいと思います。後輩たちには、次の全台湾太鼓ジュニア大会に向けて頑張ってもらいたいと思います。必ず日本への切符を手に入れてもらいたいです。お世話になった皆様、有難うございました。謝謝大家。

第17回台湾太鼓講習会

7月5・6日(土日) 桃園県「救國團復興青年活動中心」

台湾太鼓講習会が台湾太鼓協会主催にて開催され、台湾全土から139名が受講しました。開会式では、王妙涓理事長の挨拶に続いて日本からの講師を紹介され、総合指導の松枝明美技術委員長が講習会の内容を説明しました。講習会が始まると、受講生は講師の指導を一生懸命聴いていました。

○基本講座

- 3級基本講座 野方 嘉孝
- 4級基本講座 松枝 明美
- 総合指導・5級基本講座 古屋 邦夫

○専門講座

- 単式単打法講座 長谷川 義

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

- 1級検定 3名受検 3名合格 (1名認定)
- 2級検定 22名受検 22名合格 (16名認定)
- 3級検定 22名受検 22名合格・認定
- 4級検定 38名受検 38名合格・認定
- 5級検定 53名受検 53名合格・認定



(5級基本講座)

各種会議

各種会議を開催し、以下の事項が審議、承認されました。

<理事会>

2025年度第2回理事会

6月6日(金)開催

- 2024年度事業報告(案)について
 - 2024年度決算報告(案)について
 - 役員賠償責任保険の加入について
 - 2025年度定時評議員会における議案の追加について
- 報告事項 職務執行状況について

2025年度第3回理事会(書面)

6月30日(月)決議

- 常務理事の選定について
- 書面による評議員会の開催について

<評議員会>

2025年度定時評議員会

6月25日(水)開催

- 2024年度事業報告(案)について
- 2024年度決算報告(案)について
- 理事の選任について

2025年度第2回評議員会(書面)

2025年7月25日決議

- 退任理事への退職慰労金の支給について
- 常勤理事の報酬額について

<運営委員会・技術委員会>

第79回運営委員会・第86回技術委員会

5月16日(金)開催

- 2024年度事業の実施報告について
- 2025年度事業計画並びに収支予算について
- 令和6年能登半島地震に関わる支援活動について
- 大阪・関西万博1000人太鼓について

<代議員会>

第28回代議員会

5月16日(金)開催

- 2024年度事業報告並びに決算報告について
- 2025年度事業計画並びに収支予算について
- 令和6年能登半島地震に関わる支援活動について
- 大阪・関西万博1000人太鼓について
- その他

理事・監事・評議員一覧

役員の変更に伴い、理事・監事・評議員は以下のとおりとなりました。(五十音順・敬称略)

会 長	長谷川 義	評 議 員	浅野 昭利
副 会 長	古屋 邦夫		岩切 邦光
常務理事	外海 陽子(新任)		河合 睦夫
理 事	太田 義高		小林 一郎
	玉澤 正徳		佐藤 淳子
	山内 強嗣		高野 右吉
	湯澤 元一		田中 泰秀
監 事	伊藤 勝彦		中西 由郎
	金子 明		西川恵美子
			吉倉 和宏

日本太鼓財団常務理事に就任して

外海 陽子

外海陽子(とのがいようこ)と申します。

このたび7月に常務理事に就任いたしております。

今までにおきましては公益財団法人日本財団において日本各地で発生する災害への対応やホスピスの推進、総務及び経理等の職務を遂行してまいりました。そのため太鼓に触れる機会が大変少なく知識もない中ではございますが、これから精一杯学び活動につなげてまいります。

学び始めではございますが先般開催された「大阪・関西万博1,000人太鼓」において1,500人も太鼓打ちの方々が集まり10分で魅せた演奏の迫力、また前日夜間からの準備、そして演奏までの長い間続けてこられた、各支部や団体の方々の練習など多くの連携や協力によってなされていることは、日本の太鼓のもつこれからの可能性を感じるものでございました。

また、富山で実施されました第73回日本太鼓全国講習会は講師のみなさま、また、富山県支部のみなさまの献身的なご協力があってこそ実施することができていることを実感し、改めて各地域のみなさまの力とご協力に感謝申し上げます。

事務局とともにこれからも各支部や団体の方々がより深く交流しあい、技法や打法、技術を互いに磨きあえる中核的な組織として、更なる日本の太鼓の発展に尽力していきたいと考えております。

就任に関しましては、職務の重責に身の引き締まる思いでございますが、懸命に励む所存でございますので、皆様のご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



事務局だより

財団の公式サイトが新しくなりました！

一部改修中ですが、当財団の公式サイトを2016年以来、9年振りにリニューアルいたしました。今後も太鼓イベント情報などを随時更新し、より良い公式サイトを目指してまいります。

11月11日が「日本太鼓の日」として記念日に登録

日本太鼓財団の設立日である11月11日が、「日本太鼓の日」として記念日に登録されました。これは日本記念日協会が認定するものです。記念日にあわせてイベントを開催いただくなど、是非皆さままでご活用ください。

第40回国民文化祭 / 第25回全国障害者芸術・文化祭 ながさきピース文化祭2025「太鼓の祭典」

期 日:2025年10月5日(日) 開場10:00 開演10:30 終演16:00 予定
会 場:アルカスSASEBO 大ホール
〒857-0863 長崎県佐世保市三浦町2-3 Tel.0956-42-1111
主 催:文化庁、厚生労働省、長崎県、第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭長崎県実行委員会、
佐世保市、第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭佐世保市実行委員会、公益財団法人日本太鼓財団
主 管:日本太鼓財団長崎県支部、全九州太鼓連合
協 賛:日本財団
出演団体(予定)
◇オープニング:日本太鼓財団長崎県支部合同チーム(長崎)
◇公募団体:20団体(9都県)
◇ゲスト団体:5団体(5都県)
橘太鼓「響座」ジュニア(宮崎・第27回日本太鼓ジュニアコンクール優勝団体)、ふじた傳三郎太鼓(岡山)、
和太鼓会和光太鼓(東京)、和太鼓集団響屋(香川)、豊の国ゆふいん源流太鼓(大分)

第27回日本太鼓全国障害者大会

期 日:2025年10月12日(日) 開場11:30 開演12:00 終演16:00 予定
会 場:上田市交流文化芸術センター・サントミュージゼ 大ホール
〒386-0025 長野県上田市天神三丁目15番15号 Tel.0268-27-2000
主 催:公益財団法人 日本太鼓財団 共 催:社会福祉法人 富岳会
主 管:日本太鼓財団長野県支部 協 賛:日本財団
出場団体:18団体

第22回日本太鼓シニアコンクール

期 日:2025年11月16日(日) 開演13:30 * 10:00 ~日本太鼓ジュニアコンクール石川県予選開催
会 場:石川県小松市團十郎芸術劇場うらら
〒923-0921 石川県小松市土居原町710番地 Tel.0761-20-5500
主 催:公益財団法人 日本太鼓財団、公益社団法人 石川県太鼓連盟、
一般財団法人 石川県芸術文化協会、北國新聞社
主 管:日本太鼓財団石川県支部 特別協力:株式会社 浅野太鼓楽器店
協 賛:日本財団
出場団体:41組

第98回日本太鼓支部講習会(兵庫)

期 日:2025年12月20・21日(土日)
会 場:兵庫県立但馬文教府
〒668-0056 兵庫県豊岡市妙楽寺41-1 Tel.0796-22-4407
主 催:日本太鼓財団兵庫県支部
講 座:調整中
<お問合せ・申込先>
日本太鼓財団兵庫県支部 事務局長 奥藤啓
〒667-0133 兵庫県養父市畑1310 Tel:090-2113-1480

編集後記:万博大成功でしたね。夜通しご協力いただきましたスタッフの皆さま、本当にありがとうございました。なお、あの日の赤青手袋はミャクミャクのぬいぐるみにつけて家で飾ってます。(高戸)



公益財団法人 日本太鼓財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-2 日本財団第二ビル6階

Tel. 03-6205-4377 Fax. 03-6205-4378

URL: <https://www.nippon-taiko.or.jp> Email: info@nippon-taiko.or.jp

